

NEWS LETTER

編集発行：一般社団法人 福岡県言語聴覚士会 失語症サポート委員会
県士会事務局：麻生リハビリテーション大学校 灘吉享子 TEL 080-1776-5108

研修生の皆さん、お元気ですか？

2019年度は事業2年目。6、7月の4日間、新たな応募者15名に必修科目の講義を受けて頂きスタートしました。以降はそれぞれ、コミュニケーション支援実習、外出同行支援実習で経験を積んで下さったことと思います。

なお2018年度の必修科目修了生には、7月に選択科目の一部を受講して頂きました。
(今後も毎年実施予定です)

このニュースレターは、より良い支援のため、支援に関わる人がつながるために、養成講座・実習の様子、失語症関連情報、会話のコツなどについてご紹介していきます。

※バックナンバー(第1号)は福岡県言語聴覚士会HPで公開しています。ご覧下さい。

会話のワンポイントアドバイス 2 「世の中を知りましょう」

「支援者はもっと知ってないかね」・・・失語症の方に頂いた助言です

失語症の方がうまく言えない場面で、私たち受け手は、ことばやご様子から何を伝えたいのかを推測し、上手なゴールキーパーのようにしっかり受けとめたいと思います。ですが、難しい場面もしばしば経験します。

この失語症の方は、伝わらなかった時に、「世の中を知らないな」と残念に思われたようでした。支援する人にはもっと世の中を知って欲しいと。耳の痛い助言です。

世代、環境、性別の違う相手との会話に備えて知識を増やすのは簡単ではありませんが、習慣を少し変えてみると、察しの良い、会話をつなぐ人になれるかもしれません。

例えば・・・

- ◆新聞、テレビ、ラジオ、ネットニュース等で「社会の動き」に触れましょう
いつものニュース番組や紙面のできれば「最初から最後」までひと通り
- ◆興味の無かった分野にも、ちょっと寄り道
- ◆分からないことに出会ったら、それは何？と一段掘り下げましょう
- ◆人と話して教えてもらいましょう

守備範囲が広がると、通じ合う笑顔も増えるのではと思います。

難しかった経験や悩み、良かったことや工夫を共有しましょう。スタッフにも声をかけて下さい。 県士会委員一同

P1: ご挨拶、構成
P2: 福岡県の養成事業概要報告
(日本言語聴覚士会会報より)
P3: コミュニケーション支援実習の紹介
P4: 外出同行支援実習の報告

P5: 外出同行支援実習の振り返り 書籍紹介
P6: 朝日新聞記事(2020年1月10日)のご紹介
P7: 失語の日(4月25日) ※動画生配信の予定紹介
支援グッズのご紹介

内容/写真の無断転載はご遠慮ください

福岡県

一般社団法人 福岡県言語聴覚士会 会長 佐藤 文保

失語症者向け意思疎通支援者養成事業について

福岡県言語聴覚士会（以下、県士会）では、平成29年10月から事業開始に向けた準備をはじめ、平成30年6月より県の委託事業として開始しました。失語症者向け意思疎通支援者養成研修（以下、養成研修）については、講義を3日間の集中型で開催し、実習は失語症友の会など6団体（以下、協力団体）の協力を得ながら分散型で実施しました。参加者の募集は県の広報と県士会HPで行い、定員20名に対し18名（会話パートナー経験者一般8名、ST10名、平均54.2歳）の応募がありました。最終的には17名が養成研修を修了し、失語症者向け意思疎通支援者として県に登録されました。

研修について

必修科目40時間の養成研修は、講義と身体介助実習の計14時間を9月15日～17日の3日間で開催しました。残る26時間の実習は、協力団体の活動と重ねた候補日から規定時間数を満たすよう研修生が選択し、県士会で調整しながら実施しました。

実習においては、毎回、『指導STとの打ち合わせ→支援の実践→振り返り』を基本の流れとし、コミュニケーション支援実習Ⅰでは指導者研修で用いた評価用紙を活用しました。外出同行支援実習では独自に作成したシー



養成研修風景

ト（県士会HP<<http://st-fukuoka.or.jp>>に掲載）を用い、「目的」、「スケジュール」、「身支度」、「移動」、「買い物」、「飲食」、「トラブル対応」などの事前確認や実習中・事後の自己/他者評価、フィードバックを行いました。

平成30年度の事業を振り返って

事業計画についての課題としては、一般からの参加を多く募れるような募集のあり方の検討や、実習が分散型で時間を要することから、事業の開始時期の見直しが必要と感じました。また、協力団体の活動と重ねた実習では、協力団体の活動が優先されるため、評価・指導の時間や活動内容に制限が生じ、実習目的の達成が難しい場面もありました。今後は評価・指導の技法の向上、指導時間の確保、一般受講者増加に伴う実習の工夫、事業独自の实習設定、ロールプレイ演習や選択科目での補講、地域の拡大などについても、他県の情報を収集しながら検討していく必要があると思われます。

県士会では事業開始と同時に、協力団体を支援しているSTを中心に失語症サポート委員会を立ち上げました。その結果、協力団体との繋がりが強化され、事業の企画や運営が円滑に進めることができたと考えています。

今年度の取り組み

今年度は4月から事業の準備を行い、6月より養成研修を開始しています。養成研修には定員20名のところ15名（会話パートナー経験者一般11名、ST4名、平均46.4歳）の応募があり、7月より実習も始まっています。今年度から必修科目のコミュニケーション支援実習Ⅰは、講義の中に取り入れ、失語症のある人に協力を依頼し、1対1のコミュニケーション技法をしっかりと学ぶ時間を設けました。また昨年度登録した支援者を対象に、選択科目も開始しています。



コミュニケーション支援実習風景

あすの会（ウエルとばた）

毎月第2日曜



2020年2月9日（日）

流れと個別目標を確認し、失語症の方々と昼食をとりながらの会話、交流会に加わりました。テーマトークは「苦手なこと→こんな努力をしています」。ゆっくり待つ、書いて頂く、推測して選択肢を挙げる、書き示して確認するなどを実践して、お話を伺いました。間があいても慌てずに、グループ内のやりとりを促す様子もみられるようになっています。

筍の会（小倉リハビリテーション病院）

奇数月の第2土曜午後



2019年11月9日（土）

この日はグループ対抗での並び替えクイズを実施。答えを考える中で、実習生は「考えを聞き出すこと」、「周囲に意見を伝えること」に支援技術を実践しました。実習後の振り返りでは、一対一の会話での技術向上を実感する一方で、集団の中での繋ぐ支援の難しさが聞かれました。目標を持って1回1回の実習に臨まれています。

北九州市立障害福祉センター

毎週木曜午前

2019年10月17日（木）

集団言語リハビリ交流教室に参加しました。前半は「今週の新聞から」。その週の出来事・ニュースについて話し合いました。ラグビー日本代表の活躍や台風等の話題で、参加者が様々な意見を出し話し合う中、支援者はノートに会話内容の要点を書いて示し、話題を共有するための支援を行いました。後半は「誕生日」「記念日」「テレビ」「買い物」といったテーマで、身近な出来事を発表しました。20名程度のグループのため話題を共有することが難しい場面もありました。教室終了後は支援を振り返り、感じたことや課題等について話し合いました。

失語症サロン（ふくふくプラザ）

毎月第3日曜午前

スマホで調べて一緒に見えています



書いて伝えたり確認したり

2020年1月19日（日）

サロンでは最近の出来事や気になるニュースを題材に会話をしています。話を引き出したり、他の方の話を要約して伝えたりできるように実習しています。毎回、自身の目標を設定して臨み、次につながるように実習後に振り返りも行います。回を重ねるごとに利用者さんとの会話も弾むようになりました。

柳川失語症交流会 （柳川リハビリテーション病院）

5月・8月・11月・2月に開催しました。ゆっくりと時間をかけた会話や制作活動を通じた交流と、ご家族間の情報交換ができました。筑後地区における修了生の活躍の場にもなっています。（右は会員さんの作品です）



またここに来たい
またここで話したい
また皆さんに会いたい
と思って頂ける支援を

外出同行支援実習(3ヶ所) ご報告

p4

10月に3つの外出同行支援実習(バスハイク)を行いました。
遠方への往復で、あいにくの雨もありましたが、全員無事に往復されました。

失語症の方からは「楽しかった」「自分のペースを尊重してもらった」、北九州のバスハイク主催の北九州市立障害福祉センターからは「また実習の場としてお願いしたい」と、昨年に続き嬉しい言葉を頂いています。

ですが、反省も色々ありました。一部を5ページ目にまとめていますのでご覧ください。

失語症の方の自己決定を尊重し、他者と交流して頂きながら、安全に同行支援を行うのは、簡単ではありません。ご自身で行動を決められるように、情報を適切に伝えていたでしょうか？失語症の方は、一緒に過ごしながら支援者(実習/研修生)への信頼を深めて下さったでしょうか？

楽しかった思い出だけでなく、当日の自分を冷静に振り返って、反省を共有して次の支援につなげて頂ければと思います。

~~~~~  
★3月29(日)の「虹の会:お花見」(福岡リハビリテーション病院)は  
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました(参加予定者には連絡しています)



## 北九州市立障害福祉センター

### 九州国立博物館 三国志展



一緒に鑑賞中

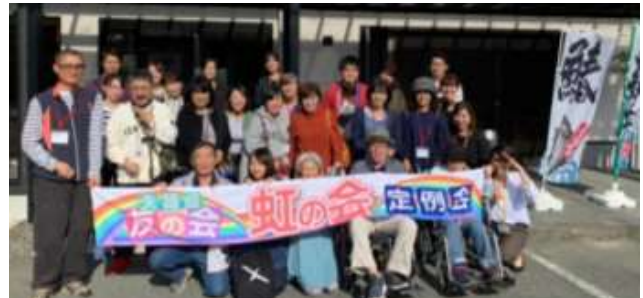
イヤホンガイドをつけてます

**2019年10月18日(金)**

バス車内での会話で本人のご様子を確認しながら、三国志展の鑑賞、食事、買い物などの支援を行いました。雨で急な予定変更もあり、団体行動での連携・伝達も必要でした。皆さん雨でも動きやすい服装、ショルダーやリュックで参加していました。

## 虹の会(福岡リハビリテーション病院)

### 博多織工芸館&海鮮ランチ



**2019年10月27日(日)**

福岡市西区にある博多織工芸館に行ってきました。博多織の伝統について学び、機織り(はたおり)を体験して、かわいいお土産も買いました。お昼は糸島で海鮮ランチを食べて、みんなで楽しいひとときを過ごしました！！

## 福岡失語症サロン

## 有田ポーセリンパーク&唐津おさかな村

**2019年10月20日(日)**

好天の秋の日、佐賀へ行きました。移動中の車内や訪問先での会話に対する支援だけでなく、スケジュールの把握や移動等に伴う安全面への配慮など総合的な支援の難しさに気づく機会となりました。



## 2019年度 外出同行支援実習 振り返り (団体旅行、3箇所)

こんなことがありました！

こう対応してみました／対応してみたら？

| 場面      | 反省点・困った点                                                                                                                           | 対応例 (実際に行ったこと、助言) ★今後の対応へ                                                                                        |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 集合      | 集合場所を勘違いしていた<br>①実習生＝集合場所が2ヶ所あった<br>②利用者＝普段集まる場所へ行ってしまった                                                                           | 落ち着いた対応(電話連絡、迎え手配、乗車場所の変更)や同行の皆さんのご協力もあり、今回は無事に合流しました。<br>★外出同行支援前日迄に「日時・集合場所」を必ず電話確認。<br>★実施団体は分かりやすい事前資料を作成する。 |
| バス乗降    | 歩行の不自由な方のステップ昇降の介助が難しかった<br>(最終ステップから地面までが遠い)                                                                                      | 踏み台(足置きステップ)を準備して、バスに載せて毎回使用。停車場の踏み台を探して、借りて使用。<br>★バス旅行では必ず踏み台を準備(低床バスは除く)。                                     |
| 車中      | どのような方か、情報が足りなかった<br>本人の意向確認が足りなかった                                                                                                | 車中でのやりとりで、理解や表出力を観察します<br>体調を伺い、行程表を見ながら、今回のご本人の興味・目的、買い物予定なども確認します。 ★個別の情報シートを準備                                |
| 移動      | 本人は歩けると思っていたようだが、実際は(全行程は)難しかった。                                                                                                   | 移動距離が長いと思われる場所では、念のため杖を用意し、休憩を挟み、杖使用を勧めた。疲労の様子を見て、車椅子使用を提案し、受け入れて頂いた。                                            |
| 予定変更    | 予定時間や内容変更への対応が必要だった                                                                                                                | ①変更内容を確認(情報共有は繰り返し/文字・数字で確実に)。<br>②失語症の方に分かりやすく伝えます(簡潔に書いて示す)。<br>③理解を確認します。                                     |
| トイレ     | 思っていた以上に時間を要した                                                                                                                     | 時間を要す方は、トイレ利用の意向を早めに伺います。<br>支援者のトイレの時間も、支援者同士で協力して確保しました。                                                       |
| 買い物     | 本人と実習生が、途中で別行動になった                                                                                                                 | 支援では、会って別れるまで、その方の安全を見守る責任があります。単独行動を希望されても必ず様子を見守りましょう。                                                         |
| 去年の反省から | ◆事業を伝えるため、実習協力依頼のチラシを配付し、名札を付けて頂きました。<br>◆個人情報・直接の連絡に関する注意喚起: 支援開始時に(実習)責任者から「実習後に連絡を取りたい場合は責任者を通じてお伝えします」と、実習生、失語症者(ご家族)双方に伝えました。 |                                                                                                                  |

## 外出同行支援 関連書籍のご紹介

外出同行支援は、失語症支援において本来重要な領域ですが、障害者総合支援法(2013年)施行に牽引された新しい領域でもあります。「外出同行支援」はガイドヘルプという長い歴史があり、良い本が出版されていますのでご紹介します。

はじめて学ぶガイドヘルプ[第2版]  
—当事者とともに伝える支援の方法—  
野村 敬子(編集) (株) みらい

### ◆目次

はじめに—ただ漠然と「支援してあげよう」と考えている自分がいませんか？—

第1部 ガイドヘルプに必要な基礎知識

第2部 視覚障害のある人のガイドヘルプ

第3部 全身性障害のある人のガイドヘルプ

第4部 知的障害のある人のガイドヘルプ

第5部 緊急時の準備と心構え

資 料 障害者に関する割引・減免制度および福祉措置一覧

### ◆概要

障害のある人と支援者が共同で執筆。

視覚障害・全身性障害・知的障害のある人の移動支援を1冊にまとめた総合的なガイドヘルプのテキスト。豊富な写真とイラストを交えてわかりやすく解説。

ガイドヘルパー、ガイドボランティアの養成に役立ち、また、現任ヘルパーにも気づきを与える内容となっている。第2版では、法改正に基づいて同行援護などを盛り込んだ。



p30 ガイドヘルパーは……「社会への橋渡し役、社会との接点の役割」  
「外出先で障害のある人とふれあう社会の人々の障害に対する理解を深め、広げていく」

B5判/p268 2,860円(税込)  
2013/06/15

失語症

厚生労働省は今年度、雇主中などで雇の一角が傷つき、問題を極めることが難しくなることを懸念し、失職患者のコミュニケーションを手助けする支援者を派遣する事業を始めた。昨年度からの養成事業に続いて、サポートを充実させた1つであったが、事業の中心となる都道府県の取り組みは広がりを欠いている。

（伊藤雅昭）

国の養成事業 福岡や熊本県実施  
講師確保に課題、派遣進まず



失効能者は国内に20万50万人いると推計されている。会話がうまくできないため、外出せずに引きこもりがちになる。厚生省は昨年度、失効能者向けの「意思疎通支援者」の養成を開始。今年度は養成した支援者の派遣にも乗り出した。厚生省によると、養成は都道府県と政令指定市、中核市が担い、派遣は都道府県や市町村が行う。昨年、養成したのは東京、愛

32歳で脳卒中 言葉が暗号のようになった

福岡県糸島市の重富粉子さん(40)は32歳のとき、嵐軍中で倒れた。病院で意識が戻ると、言葉が出てこなかった。「な、に、こ、れ」。相手が話すことが、暗号のように聞こえた。後遺症で重度の失語症になり、言葉を適切に話したスケッチブックに手紙の模様を描いて伝える重富粉子さん(右)福岡県糸島市

り、聞いて理解したりすることが難しくなつた。樹樹郎で医師から「大丈夫です」とか「聞かれ、意味が分からないまま」「はい」と答えてしまふこともある。

冒険は絵や電子ボード、ジェスチャーを使ってコミュニケーションをとっている。たゞ、数字を理解することが特に困難で、レジャや、支払う金額を間違えたり、時間を口頭で伝えられても

分からなかったりする。  
3年前、周囲の反対を押  
し切つて二人目を産み、未  
の倫一さん(47)は裕子さん  
の出産後、仕事を辞めたた  
が、今は再就職を考えてい  
る。裕子さんが一人になつ  
たとき、支援者がいれば買  
い物や通院の同行を任せら  
れる。倫一さんは「専門の  
人がいたら、うちは助かり  
ます」と期待する。

知、京都、広島、福岡、熊本など12都府県。昨春調査した一般社団法人・日本言論振興会士連合会によると、今年度新たに賛成や予定と答えたところを合わせても2都府県だった。講園の確保や、家賃での当事者の協力など相違が大きいという。

実施予定がない秋田県障

南福地選の担当者には「二  
ズがつかぬ」と。他の自民  
体の様子を見てゐる。「和  
明、昨年度は差成したが、  
今年度取りやめた長野県  
がいずれ支援の担当者で  
「選挙態勢の準備ができて  
いなかった」と話した。昨  
年度は再開する予定。  
昨年度差成した12都府県

に取材したところ、今年度  
派遣したのは京都と広島  
の2府県で、神奈川は試験  
に始めた。英城、岐阜、  
知の3県が来年度からの  
派遣を検討中で、東京、  
兵庫、福岡なども都県は  
「未定」と答えた。一方、  
都庁では来年度からの派  
遣を希望する市町村もあ  
る。

者も、銀行や役所などでの対応に手続きにたいへん苦しい。広島国際大学の田路啓子教授（言語聴覚学）は「支援者は人情を扱うため、失語症者と信頼関係が重要。関係を築くこともスループット（必要）と指摘している」。

■失語症者向け支援者の養成・派遣の実施状況

茨城、群馬、東京、神奈川、長野、岐阜、愛知、京都、兵庫、奈良、福岡、熊本

この12都府県のうち  
今年度中に派遣を実施  
京都、広島、神奈川  
(神奈川は試  
験的に実施)

茨城、岐阜、愛知  
未定  
群馬、長野、兵庫、福  
岡、熊本、東京  
(東京は一部の市区)  
町村が本年度から  
の実施を検討中

計されている。県道建設費  
士会の佐藤文保会長によら  
と、県内では昨年度17人が  
支援者になり、今年度はほ  
人が修了見込みだ。佐藤会  
長は「支援者と失調症者と

の相性もある。人数は十でない」と言う。

## 6 割外出減る

みずほ情報総研が2015年、失業者1066人に調査したところ、約64%が発症後に外出頻度が減り、約72%が他者との交際頻度が減ったと答えた。

2020年(令和2年)

1月10日

金曜日

朝日新聞

| 天気  | 東 | 中 | 北 | 西 | 南 | 時   |
|-----|---|---|---|---|---|-----|
| 福岡  | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | 15℃ |
| 北九州 | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | 15℃ |
| 山口  | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | 15℃ |
| 大分  | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | 8℃  |
| 佐賀  | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | 9℃  |
| 熊本  | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | 9℃  |
| 那覇  | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | 19℃ |
| 大阪  | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | 16℃ |
| 東京  | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | ☀ | 17℃ |

朝日新聞西部本社

福岡支店

社址：〒812-8588 福岡市中央区天神1-1-1  
 電話：092-563-1131 www.asahi.com

## 失語症支援 担い手どう育てる



唇の一部が腐つき、言語を操ることが難しくなる「失語症」。厚生省が支援者の派遣事業を始めるなど、サボートの光が当たり始めた。27

丁寧な取材で  
・支援事業の全体像  
・各県の進捗状況  
・失語症の方のご苦労  
などを  
分かりやすくまとめて  
下されています。

福岡失語症サロンにご参加の女性が記事に取り上げられました。

## 失語症の日プロジェクト

4月25日が「失語の日」として登録されました（2020年1月7日登録）

p7



失語の日制定委員会HPより転載  
[https://peraichi.com/landing\\_pages/view/425](https://peraichi.com/landing_pages/view/425)



ロゴが決定しました  
 形で4月25日を表現  
 それぞれの口の形にも注目です

知ることではじまる

### 約50万人の失語症者の声

日本には約50万人の失語症者がいます。

- ・障害により、コミュニケーションが困難になる。
- ・社会生活を営むうえで、たくさんの困りごとを抱えている。
- ・リハビリを希望しても多く人が打ち切られている。
- ・介護保険や障害福祉制度で、その困難さがあまり反映されていない。
- ・本人はもとより、家族にも支援が行き届いていない。
- ・医療や福祉に携わる人でさえ、接し方が分からない。
- ・不適切な対応で失語症者を傷つけている場合もある。
- ・失敗体験によって、社会的に孤立している人も少なくない。

私たちは、「失語症の日」を制定するプロセスを利用し、大勢の人にこの障害について知ってもらうことで、失語症についての理解が深まり、失語症者への支援が広まり、失語症者自身の社会参加がすすむと考えています。



八島三男会長  
 NPO法人  
 日本失語症協議会



失語症の日プロジェクト

福岡では？

何かしたいね！と企画を検討していましたが、残念ながら今年は、新型コロナウイルスの影響で、集会イベントの見通しが立たない状況です。全国の情報をお知らせします。

## 失語症者のイベントでは日本初！YouTube生配信！

「NPO法人 Reジョブ大阪」さん企画の講演イベント(東京)の生配信が計画されています。  
 登壇者は「沼尾ひろ子さん/ナレーター」「関啓子さん/言語聴覚士」おふたりとも失語症当事者です。

詳細(具体的手続き等)はこれからWEBで公開予定です。興味のある方はぜひ検索してみてください。

<https://re-job-osaka.org/> 検索ワード「失語症の日 Reジョブ大阪 イベント」

※生配信は通常、Wi-Fi・インターネット環境と受信機器(パソコンやスマホ)を準備し、  
 受信の手続きを申し込むと、パソコンやスマホで見られます。  
 (動画の受信はデータ通信量にご注意下さい)



## 支援グッズ 筆記具とファイルのご紹介

文字やイラストは大事な伝達・確認手段  
 紙と筆記用具を携行しましょう

使いやすさ、携帯性、価格から、3点をご紹介します

A5リングノート 平らに広げられ、切って渡しやすい  
 100円ショップでは表紙も色々

ぺんてる水性サインペン黒 100円+税 ちょうど良い線の太さ

パイロット持ち歩きフォルダーS A5 ノンカラーがおススメ  
 400円+税 (大きな文具店、ネット注文など)  
 予定プリントなどを背側に入れると見やすいです

※ノートとペンはパイロット持ち歩きフォルダーSにセットできます

